

2026年度 5月 1日

オ リ ー フ 通 信



これは、主がなさったことで、
私たちの目には不思議に見える。
マルコによる福音書 12章 11節
神愛保育園

「大切な一人ひとりのいのちを守るために」

新緑がまぶしく、子どもたちの笑顔がいっそう輝く季節となりました。4月からの新しい生活にも少しずつ慣れ、子どもたちが安心して過ごす姿に、私たち職員も日々励まされています。

先月は懇談会にご参加いただき、ありがとうございました。保護者の皆さまが子どもたちについて紹介して下さる場面では、好きな遊びやご家庭での様子を楽しそうにお話しされる姿がとても印象的でした。神愛保育園に通う子どもたちは、ご家庭の中でたくさんの愛情に包まれて過ごしていることが伝わり、私たちも温かな気持ちになりました。つくし組の懇談会は今月開催されますが、子育てをする仲間として、楽しく有意義な時間となるよう努めてまいります。

神愛保育園は、創設者・賀川豊彦の精神を受け継ぎ、キリスト教保育を大切にしています。子どもの権利を早くから提唱し、弱い立場に置かれた人々に寄り添ったその姿勢は、今も私たちの保育の根幹となっています。しかし近年、子どものいのちを守ることの大切さを改めて強く感じさせられる出来事が続いています。報道される痛ましい事件の数々は、子どもたちの安全がいかに脆く、社会全体で守っていくべきものであるかを私たちに問いかけています。犠牲となった子どもたちを思うと胸が締めつけられ、深い悲しみを覚えます。こうした現実を前に、私たちができることは、日々の保育の中で一人ひとりの子どもを丁寧に見つめ、安心できる環境を整え続けることだと感じます。子どもたちが「自分は大切にされている」と感じられる経験は、心の土台となり、未来を生きる力につながります。また、保護者の皆さまとも思いを共有し、子どもを中心にした温かなつながりを育むことが、子どもたちの安全と成長を支える大きな力になります。聖書には「小さき者の一人にしたことは、私にしたのである」という言葉があります。子どもたちに向けるまなざし、声かけ、抱きしめる腕、そのすべてが尊い行いであり、神さまから託されたいのちを守る行いです。賀川豊彦が生涯をかけて示した「愛と奉仕」の精神を、私たちも日々の保育の中で実践していきたいと思えます。

外遊びが気持ちのよい季節です。自然の中でのびのびと遊びながら、子どもたちの小さな発見や喜びに寄り添い、共に過ごす時間を大切にしていきたいと思えます。

神愛保育園 園長 大滝忍

保健だより 2026年5月



4月は桜の便りから始まり、新入園・進級を祝う季節でした。新しい保育室や友達にも慣れ、子ども達の元気な声が聞こえてきます。寒暖の差が大きく、初夏のような日差しの日もあれば、ひんやりとした風が吹く日もありました。園では、溶連菌感染症また夏風邪の一種であるヘルパンギーナ・手足口病でお休みされるお子さんが居ましたが、大きな感染の拡がりはありませんでした。

5月12日(火)は全園児健診です。

お休みをされた場合には、園医による0歳児健診が毎月第二火曜日にあるので、そこで受診します。(年間2回の受診が定められています)お子さんの身体の症状・発達についてなど気になる事がある場合には、担任にお声かけください。園医に受診・相談をすることができます。

毎月の計測

園では月に一回、計測(身長・体重)をしています。ウェブ連絡帳で確認していただけます。年度末(3月)にはお子さんの一年間の成長を確認して頂けるよう、成長グラフを配布いたします。



～地域の親子と園児の交流～



ひだまりは年末年始と祝日・休日を除く月曜日から金曜日の午前10時から午後3時まで、地域の親子に開放している子育てひろばです。

12時から13時のランチタイムではスタッフと一緒に親子が食事をすることも可能です。また、月に一回土曜日に保育室を開放する「保育園であそぼう」も行っています。在園児親子の参加もお待ちしております。

園舎とは少し離れた場所にあります。室内にはおもちゃ・絵本・お母さん向けの雑誌等が置いてあります。お子さんが遊んでいる姿を見ながらお母さん同士がおしゃべりしたり、雑誌などを読んだりできるスペースです。保育園の子どもたちが散歩帰りに立ち寄ってくれたり、2階のテラスから手を振ってくれたりして、ひだまりに遊びに来てくれる親子との交流をしています。今後もさらに交流を深めていきたいと思えます。

今年度もよろしくお願いたします。



食事だより



神愛保育園では以下のことに配慮して食事を提供しています

☆国産の食材を主に、無添加の調味料を使用しています☆

お米は、地元のお米屋さん和秋田県の農家、2か所の物を使用しており、1歳～5歳クラスまでは五分づき米を使用しています。(雑穀も一緒に炊き込んでいます。) その他にも、近隣の八百屋さん、お肉屋さん、魚屋さんからその日に市場で仕入れてきた新鮮な食材を納品して頂いています。調味料は生協の国産の食材を使用した無添加のものを使用しています。(果物は価格高騰と誤嚥事故防止により提供の種類が減っている為に、2024年度の2月から輸入品も使用しております。)

☆ごはんが中心の和食献立を多く取り入れています☆

パンや麺のメニューはおやつも含め、週2～3回を目安に組み込んでいます。季節(旬)や行事に合わせたメニューや、郷土料理なども取り入れています。(郷土料理は月に一回です。献立表に記載しています。)

☆保育園での栄養目標に準じた献立を作成しています☆

4月は1日平均でたんぱこ・もも組 約500kcal ちゅうりつび・ひまわり組 約600kcalを昼食とおやつから摂取できる様にしています。身長・体重の成長にあわせて、栄養価など見直しながら園の特色を生かした食事内容を検討しています。

☆毎日だしを取り、おいしく体に優しい食事を提供していきます☆

だしは国産で自然食の干し椎茸、天然の昆布、ブレンドの厚削りを使用しています。離乳食では素材の味を生かし、調味料は少量で段階に合わせて使用します。乳幼児食もただ薄いだけで味気ない食事ではなく、旨味を感じられる塩分を考えながら味付けをしています。(塩分濃度は0.6～0.7%を基準値とし、調理職員全員で味見をして、塩分計も使用しています。)

☆肉類の提供には細心の注意を払っています☆

近年、肉類の誤嚥による死亡事故が増えています。それに伴って、神愛保育園でも肉類を提供する際には子どもたちの口腔内の発達に合った物を提供しています。主に乳児クラスには、1cm以下の大きさを提供しております。(幼児クラスで必要な子どもには、個人対応を行っております。)

その他にも誤嚥などの事故を防ぐために、全クラスで子どもたちが食べ終わるまで食事を見守る職員を配置しています。(江東区で2025年度4月より義務付けられました。)

調理室では以下の事を心掛けて食事を作ります

- その1. 園児はもちろん、園にお子様を預けて下さっている保護者の皆様の安心・安全の為に衛生管理の徹底をお約束します。
- その2. 既製品・化学調味料は極力使用せず、だしの風味を生かした優しい味を心掛けていきます。おやつも手作りのものを中心に提供していきます。

ご質問などありましたら、調理室にお声掛け下さい。2026年度もよろしくお願ひ致します。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子ども様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2026年4月20日（月） 天気 晴れ もも組（2歳児）

「 大切な経験 」

今日は、高森公園へ散歩に行く。暖かくなったためか、今まであまり見ることがなかったアリがたくさん活動していた。AやBは、アリに興味を持ち捕まえようとしていた。まだ力加減が上手くいかず、殺してしまうことが少々あったが、自分で捕まえられたことを喜んでいて。わざと踏んで殺すことに対しては止めていきたいが、今回の場合は、可哀想ではあるが経験の一つになればいいなと思う。これからは、もう少し硬いダンゴムシが発見できると思うため、力加減を覚え殺さずに捕まえられるようになって欲しい。

この日誌は、もも組のお散歩の様子が書かれたものです。新緑がまぶしい季節となり、散歩先でも小さな虫たちが元気に動き回るようになりました。もも組の子どもたちは、虫を見つけると「触ってみたい!」と好奇心でいっぱいです。ただ、まだ指先の力加減が難しいこともあり、捕まえようとして思わずつぶしてしまう姿も見られます。

そんな姿を受け止め、担任としても「どうすれば虫を傷つけずに触れ合えるかな?」と、子どもたちと一緒に日々試行錯誤しています。

時には、捕まえた虫が動かなくなってしまう経験をすることもあります。2歳という時期に「命の尊さ」を言葉で理解するのは少し難しいかもしれませんが、こうした実体験の積み重ねを通して、少しずつ命の不思議さや大切さを肌で感じてほしいと願っています。

気候の良いこの時期、これからも子どもたちの「面白い!」「不思議だな」という心の動きを大切にしながら、春の自然との出会いをたくさん楽しんでいきたいと思えます。



2026年4月8日(水)

天気 はれ

ひまわり組(年中)

「自分たちで解決」

今日は隣の公園へ散歩に出かけた。大縄を楽しみにしている子どもが多く、到着すると早速「大縄しよう!」と子どもたち同士誘い合う姿があった。順番待ちの列でAとBの言い合いが始まり、保育者に助けを求めにきた。保育者が状況を聞いて話を整理し、その後は「大縄休憩しておくから2人で話し合ってみたら。」と伝えた。普段Aは気持ちの浮き沈みがあると話し合いも拒むことが多かったが、今日は2人で意見を言いながら「じゃあじゃんけんしよう」と解決することができた。大人の力ではなく自分たちの力で解決できたからか、その後も大縄を継続し、楽しむ姿があった。子ども同士のトラブルで話し合う時は、まず最初に状況を整理することは保育者の大切な役割だと思う。少し冷静になってから子どもたちに任せてみると、それぞれの力が発揮されると実感した。

子ども同士のトラブルは、日々の保育の中で避けて通れない場面ですが、その一つひとつが子どもたちの成長につながる大切な機会だと改めて感じました。今回、大縄の順番をめぐるAとBが言い合いになった場面では、保育者が状況を整理し、気持ちを落ち着かせるための最初のサポートを行った後、「2人で話し合ってみたら」と、そっと背中を押して見守ったことが、子どもたちの主体的な解決につながりました。普段は気持ちの浮き沈みに左右され、話し合いを避けがちなAが、自分の思いを言葉にし、相手の意見も受け止めながら折り合いをつけていく姿は、まさに子ども自身の力が発揮された瞬間でした。最終的に2人が「じゃんけん」という方法を選び、納得して遊びを再開できたことは、成功体験として今後の人間関係づくりにも大きく影響していくはずです。

保育者がすぐに解決策を提示することは簡単ですが、それでは子どもたちが自分で考え、相手と向き合い、折り合いをつける経験を奪ってしまうことにもなります。今回のように、必要なサポートを最小限にとどめ、子どもたちの力を信じて待つ姿勢こそが、社会性や自己調整力を育むうえで欠かせない関わりだと感じました。大人に頼らずに解決できたという実感が、子どもたちの自信となり、遊びがより豊かになっていくと良いと思っています。

2026年度「しんあいキッチン」が始まりました。



2026年度の「しんあいキッチン」は4月22日（水）に始まりました。昨年度も多くの方に利用していただきました。また、ひだまりとの共催で行っている離乳食・ミルクの配食事業は300家庭に配ることができました。

「しんあいキッチン」は偶数月の「ファミリー」と奇数月の「キッズ」で開催しています。ファミリーは在園児のご家庭はもちろん、卒園児や地域の子育て世帯を主な対象者としています。「キッズ」は小学生の居場所事業の「あそび道場」の中で食事を提供しています。

「しんあいキッチン」は園の職員有志をはじめ江東区内にある法人施設の職員有志、および卒園児の中学生のボランティアによって運営しています。中学校には、ボランティアクラブというものがあり、嬉しいことにそのつながりで参加の輪が広がりました。

主なメニューは「カレーライス！」と思われがちですが、昨年度は「から揚げ」「ジャージャー麺」など利用者の方からのリクエストも受付けて提供しました。調理の和田が腕を振るっていますので、ぜひ一度予約を入れて遊びに来てくださいね。お待ちしております。



ボランティアの中学生が看板を書いてくれました！

